

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	移住者によるまちなか居住推進モデル作り事業
対象地域	大分県別府市
活動概要	<p>対象地域である別府市の中心市街地は少子高齢化や郊外部への転出により、市全域の人口が微減であるにもかかわらず平成8年末から平成18年末の間に約13.1%も減少した。このことが中心市街地の活力を失わせている大きな要因であり、その解決策として居住人口の増加が地域の課題である。</p> <p>一方で、別府市にはその豊かな温泉資源と温暖な気候などにより、シニア世代の移住者が増加傾向になっており、今回の応募団体であるNPO法人セカンドライフ倶楽部(NPOセカンド)の様に、別府への移住者らが自らNPOを立ち上げてまちづくりに関与する例もでてきた。</p> <p>本モデル事業においては、地元でまちづくりを担ってきたNPO法人別府八湯トラスト(NPOトラスト)がNPOセカンドと協働し、地域住民や自治体との連携も図りながら、移住者のまちなか居住推進モデルを作り、地域課題の解決とモデル化を図るものである。</p>
今年度の主な取組	<p>①移住に伴う住まい選択の調査事業 既移住者を対象にして、「移住時における住まいの選択理由と情報入手手段」、「移住後に分かった好ましい住まい」等をアンケート形式により調査し、調査を通じて、移住者が望む物件を明確にし、まちなかの居住物件探しや整備に役立てる。</p> <p>②移住暮らし支援サービスの調査事業 既移住者らを対象にしたワークショップ形式のヒアリングを行い、移住者が「まちなか居住」を選択するために必要な生活支援サービスなどのニーズ調査／アイデア出しを行う。</p> <p>③まちなか居住物件の調査事業 まちなか居住を促進するための中心市街地における空き家の実態調査および活用協力者を確保する事業を行う。①の調査を参考にして、アルバイト調査員による聞き取り調査を実施する。</p> <p>④まちなか居住促進サロンの事業モデル調査 別府市中心市街地活性化協議会との連携により、移住者のまちなか居住を推進するために必要な情報提供・交流拠点としてのまちなか居住促進サロンの運営モデルや最適な立地場所を調査する。</p> <p>⑤シンポジウムの開催 ①～④で得られた成果を地域に紹介するためのシンポジウムを開催する。</p>
活動結果	<p>別府への移住希望者にとっての、好ましい「まちなか居住物件」のイメージがエリア及び住まいの形態面から明確にできたことが効果としてあげられる。</p> <p>別府在住の移住者がまちなかに望んでいる機能が明確になり、今後の中心市街地活性化及び取り組みのモデルが明確になったことが効果としてあげられる。</p> <p>「まちなか居住応援隊」の結成により、学生・地域住民による移住者支援のネットワークが構築され、今後の交流事業にも協力が得られやすくなることが期待できる成果も生まれている。</p> <p>全体の活動を通じて、移住者が現在持っている課題が明確となり、その解決のために必要な情報提供の内容などが明確になっており、また、事業を通じた情報発信により、移住者のまちなか居住促進事業を積極的に推進する機運が高まってきている。</p> <p>今後は、今年度の活動で構築した基盤となるコミュニティに加えて、ウェブサイトを通じた外部人材への訴求を進めるとともに、周辺農村部のコミュニティとの連携などにより、さらに広範なコミュニティ作りも視野に入れている。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>事業期間中に、日本経済新聞社の全国版で取組が紹介された結果、別府への移住希望者からの問い合わせが多数あり、今後の活動の拡大機会につながっていった。新たな公モデル事業のニュースリリースを見ていた新聞記者が自身の担当する特集記事にふさわしいと思い、問い合わせをしてきたものであり感謝している。</p> <p>まちなか物件調査等において、別府市内の大学生(立命館アジア太平洋大学)の協力を得ながら推進してきた過程において、移住者と大学生の間に交流が始まり、平成21年度に大学生らがスタッフとして手がける地域づくりアートイベントなどへ、移住者の数名がボランティアスタッフとしての協力を申し出るなどの新たな展開が起こった。</p> <p>大学生も大部分は一時的な移住者であり、積極的に地域づくりに関与する姿勢が移住者にとっても共感を呼んでいると思う。また、移住者は地域づくりに関与したくても、地域と関係性を持つきっかけができない場合が多いため、大学生らを媒介することでその可能性は高まるということを実感した。</p> <p>UIJターン関連の事業に関しては、行政などが中心になった「呼び寄せる」為の事業活動の情報発信が中心になされていると感じる。既移住者の問題解決の為に地域が取り組んでいる活動、もしくは楽しく移住生活を送るための支援的な取り組み、実際に楽しく移住生活を送っている移住者本人からの情報発信などの頻度は比較的少ないのではないかと感じる。本モデル事業での活動は、むしろそちらの情報発信を積極的に行うことで、別府への移住希望層の関心を高める戦略をとっている。</p> <p>移住の際に用意された優遇的な支援パッケージの情報発信も魅力だが、ある程度所得的に余裕のある層を呼び寄せる場合は、支援時の経済的なメリットよりも、「移住後に期待できる空間的・精神的に豊かで安心できる暮らし」という側面をより分かりやすく伝えていく必要があると考えている。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div data-bbox="691 976 1121 1279" data-label="Image"> </div> <p>【写真】移住者によるまちなか居住促進サロンの候補地の検討</p>
<p>応募団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 別府八湯トラスト 特定非営利活動法人 セカンドライフ倶楽部</p>
<p>リンク</p>	<p>http://homepage3.nifty.com/hatto-kk/trust/ http://www.ctb.ne.jp/~beppu-secondlife/index.html</p>
<p>部局/担当者名</p>	<p>別府八湯トラスト 事務局 野上 泰生</p>
<p>連絡先</p>	<p>090-4994-4847</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>大分県別府市</p>